



華となれ!

宮城県仙台二華中学校
学校だより 第5号
【発行日】平成28年5月11日
【連絡先】022-296-8104
【文責】副校長 中澤宏一

【校訓】 『進取創造』『至誠貢献』

【教育方針】 豊かな心と高い知性を持ち、進取の気風と創造性にあふれ、社会のリーダーとして、わが国や世界の発展に貢献できる人間を育成する。

「仙台二華の体育祭」～クラスの団結で優勝へ・・・～

4月27日(水)に中学生・高校生の交流及び新しいクラスの親睦・団結を深めることや、行事の企画運営に関する能力を養うこと等を目的に体育祭が行われました。心配された天気も競技終了まで晴天が続き予定していた競技をすべて無事に終えることができました。

仙台二華の体育祭は、体育行事实行委員会が中心となって企画・運営が行われます。新年度が始まったばかりの時期の開催で、準備期間がほとんどとれないまま当日を迎えた感がありましたが、見事な運営だったと思います。

仙台二華の体育祭では、伝統的に「こけし」が優勝賞品で、各クラスが「こけし」を目指して競技に取り組みます。すべての競技に盛り上がりを見せましたが、最後に行われた「クラス対抗リレー」は、走者とクラスの生徒が一緒になってゴールする感動的な姿になりました。まさに、仙台二華に爽やかな風が吹きぬけた春の一日になりました。

下に当日の子どもたちの真剣で爽やかな姿を紹介します。二華生の輝く姿をご覧ください。



(息の合った大縄跳び)



(力の限り、綱引き)



(ユーモアあふれる部活動対抗リレー)



(Survival brothers (O×クイズ))

「 5月7日は本校の創立記念日 」

5月7日は本校の創立記念日でした。今年は本校創設の父、富田鐵之助の生誕180年、没後100年にあたることから「富田鐵之助特別展」を二華会館において5月23日（月）まで開催しています。是非、この機会に足をお運び頂き、富田鐵之助の志を知るとともに、本校創設に至る道のりについて様々な資料を基に辿って頂きたいと思えます。

5月6日（金）の5校時に、高校1年生のクラスを対象に、歴史研究家で富田家の家系の長澤信孝氏を講師にお招きし、富田鐵之助の活躍や本校創設にかかる状況について講話を頂きました。以下に、長澤氏の使用された資料から富田鐵之助の生涯を紹介します（一部抜粋）。

「富田鐵之助は仙台藩伊達家の家臣の家柄に天保6年10月16日に生まれ、幕末の仙台藩士・明治期の外交官・日本銀行総裁・貴族院議員・東京府知事等を歴任した。

安政3年藩命により江戸に出て、勝海舟のもとで学び、慶応3年にはアメリカに留学している。本校の設立にもかかわりを持つ新島襄とはアメリカで出会っている。富田鐵之助は、清廉潔白で頭脳明晰といわれ誉れ高く、勝海舟にも可愛がられていたと考えられる。また、郷土愛が強く、私財を投じて職業専門学校の設立や旧仙台藩出身者の学資支援等を行ったという。妻は杉田玄白の孫で媒酌人は福澤諭吉と言われている。

江戸時代に生まれ、明治、大正を生き、当時としては長寿の82歳で生涯を閉じた。」

彼は、明治19年、新島襄らとともに「同志社英学校」の分校といえる「宮城英学校」の設立に加わる。理事会を「東華義会」と称し、初代校長は新島襄。これが本校の前身「東華学校」であり、歴史の変遷を経て「東華女学校」「東華高等女学校」「宮城県第二高等女学校」「宮城県第二女子高等学校」そして現在の「宮城県仙台二華中学校・高等学校」に至っている。



(長澤信孝氏の講話)



(二華会役員の方のお話)

「 仙台国際ハーフマラソンで入賞 」

5月8日（日）、第26回仙台国際ハーフマラソン大会が開催されました。日本陸連公認コースで13,336人が出場しました。その国際的な大会で、本校から入賞した生徒を紹介します。

○2kmの部 中学校男子

1位 小原 響さん（中学3年）6分02秒 2位 平岡 知朗さん（中学3年）6分23秒

○5kmの部 女子

1位 小田島 侑美さん（高校2年）19分05秒 お疲れ様でした！

◎指導主事訪問日程変更のお知らせ

5月27日（金）に予定していた指導主事訪問が、諸般の都合により6月3日（金）に実施することになりました。詳細はお子様を通じてお知らせいたしますのでご承知おきください。